

1. 心の基本構造

仏教や心理学や物理学の本を少し読んで見て、自分の体験を加味し、総合的に私が把握した浅学の限りにおいて、個人としての存在を構成する感覚や認識世界の精神構造を図(表)－1 のとおり整理して見ました。

図(表)－1									
仏教的					精神分析的 (ユング他)			二元	
六根 (※1)		六境 (※2)		六識 (※3)					
外的 器官 (五根)	眼	色	眼識	前五識	前六識	顕在意識	(表層的通常意識) 自我意識	意識層	
	耳	声	耳識						
	鼻	香	鼻識						
	舌	味	舌識						
	身	触	身識						
内的 器官	意	法	意識	(第六)					
末那識 (マナ識) ※4				第七識		深層	潜在意識	a 個人的無意識	無意識層
阿頼耶識 (アラヤ識) ※5				第八識			超意識	b 集合的無意識	

(※1) 六根とは、人間の感覚器官をいう。

(※2) 六境とは、六根が感知する対象領域をいう。

(※3) 六識とは、六根と六境との接触、相互作用により生ずる認識をいう。

(※4) 末那識とは、前六識の背後で働く自我意識をいう。

(※5) 阿頼耶識とは、最深層に位置し認識されない識をいう。

(a) ; ユングによれば、個人的な人格形成要素が集積された域をいう。

(b) ; ユングによれば、全人類の始まりから今日現在に至るまでの全痕跡が集積された域をいう。

2. 一人の人間の心は、複雑系と秩序系の混在・重層化を以て形成

私の言葉で言うならば、意識層は通常の意識処理機関をいう、無意識層は“固有の体内文化”という。

(1) 仏教

身近な仏陀の教え、仏教の神髄の中核教義と言え、私が思うには「無・空・中、諸行無常」の観念です、人の生存を含めてこの世の全てのもの・ことは常に有らず、人間個別の自己・自我はそもそも存在しないのだ、万物は一瞬たりともその姿に留まることは無く移ろうものであるということ。その捉え方はすなわちこの世は「一つ＝全一」とする観方でもあります。五感で捉えるものが永久不滅の実態では無い！よくあるのが“心ここに非ず”で、私に見えても他人には見えない、相手が聞こえても私は聞こえないとい

うことは日常ままあることです。にも係らず分別知で作る自己・自我を無二絶対唯一と思い込み、その執着・煩惱が諸々の迷い（叶わぬ欲望に不平不満を募らせる、優劣を競う）を生むことになります。

(2) 自己（真我）に戻る3法則

自分に係る善し悪しの全ての出来事は、自己総体（過去・現在・未来の全一）の現実化の結果であると言われていますが、実感します。その表れ方には次の3法則が作用していると思います。

- | | | | |
|---|----------------------------|---|---------------|
| { | ①共時性(Synchronicity) | } | (連鎖、重層化している！) |
| | ②因果応報(causal nexus) | | |
| | ③ブーメラン効果(Boomerang effect) | | |

a. まずは、心理学者ユングの唱えた「共時性」

ネット・ウィキペディア等より。ユング心理学の基本概念においては、外的世界の物質の運動を主として規定する「因果性」とは独立（無関係に）して、「意味」や「イメージ」の「類似性・類比性」によって、外的世界の事物や事象、内的世界の個人の精神が互いに同時的な相関性を持つ「共時性（シンクロシティ）＝“意味のある偶然の一致”＝“非因果連結原理”」が存在する、とされています、将来（未来に）起こるであろうと予め知らされる夢や予感、予兆や直感が現実の出来事となり、偶然のようだが、偶然では無く一致を見る現象を意々ます。意識層の現象界における因果関係はまったく無いということです。もう少し具体的に言うと、当人の心あるいは魂の動き——欲求する事象が、無意識層（超意識界）に沈潜している必要な人や物と共振・共鳴し、その元型（原型）をも動かし、所期の求める事象となって顕現する状況を意々ます。

b. 因果応報（善因善果・悪因悪果・自因自果）、因果律

仏教第八識の阿頼耶識アラヤと繋がります。普段自覚出来るのは意識なのだが、それよりもはるかに深い処で、はるかに強い力で私達を動かしているのが、阿頼耶識にある『業力』です。私達の行いは、身体で行ったことを「身業しんごう」、口で言ったことを「口業くごう」、心で思ったことを「意業いごう」と意々、つまり、普段の何気ない「心・言・行」は、目には見えないが、決して消えることのない不滅の業力となって、阿頼耶識に収蔵されるのです。因果の道理とも謂われ、一般的に知られている「行為の結果には必ず直接・間接の原因がある」という仏教（仏陀）の教説です、原因行為とは身体・言語・思考による「身口意しんぐい」の三業をいう。大香はこの三要素を「心（認識や精神）・言（言葉や言語）・行（行動や活動）」と称しています。また、結果の表れ方は、現世（今）はもちろんのこと、次世（未来、将来）に渡るとされています。

結果としての幸福という運命は、今・過去の善い行いが生み出したものであり（善因善果）ます。

結果としての不幸という運命は、今・過去の悪い行いが引き起こしたものであり（悪因悪果）ます。

自分にまつわる全ての出来事（運命）は、自分の撒いたタネまが生み出したもの（自因自果）です。

因果応報は、縁起（因縁生起）説とも意々、この世の森羅万象は、全てのもの・ことの相関（相互関係）を持って成立していると説きます。全てのもの・ことは、孤立した状態には無いということです。阿頼耶識アラヤは縁あるもののリレーで未来・後世まで延々と引きずると言われます。断ち切る方法はあるがいちいち解説するものではありません。

c. ブーメラン効果

ブーメラン (図-2) は、投げると手元に戻って来ます、物理的な説明は省きますが、その訓える処を学びます。アメリカの啓蒙思想家ラルフ・ウォルドー・トリンはその著書「人生の扉を開く (万能の鍵)」の中で『あなたが抱く、どの考えも力となって出て行き、どの考えも同じ考えを引き連れて戻ってくる』と説いています。」上記の共時性や因果応報、同期化の法則 (自然原理) にも繋がります、日常の暮らしの中で、否定的な考え方で

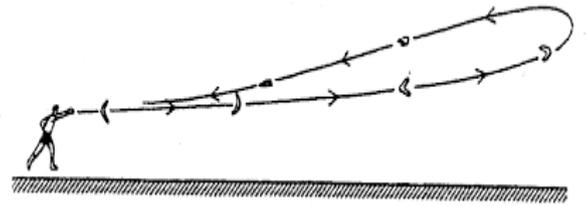


図-2

もの・ことを片付けているのか、肯定的・発展的な姿勢なのか、それがそのまま吾が身に跳ね返る、至極当然のことです、つたない短歌が浮かびました。

- ・ 言霊に潜まる力はブーメラン 因果真理を集めて戻る
- ・ ブーメランを投げる心に何乗せる 乗せた心とその儘帰る

その1 ; 前述の著名な識者が述べていますが、共通するのは「物体と精神、心と体、心理と物理」の全てが「一つ=全一的」ということです。図-1の意識層はそのまま、どんどん無意識層に畳み込まれて行く、沈潜して行く、沈殿し積層化して行くのです。とりとめもない、繰り返される平凡な日常生活において、対人関係であれ、読む新聞・雑誌・本であれ、テレビであれ、社会動静を含めて種々雑多の情報がどんどん無意識層に落ちて行きます。この過程は一々意識しているものではなく、人間という生命の自動処理装置です。生まれた以降のあらゆる知識・認識が畳み込まれるのです。その領域で「体内文化」が形成されます、それが、『その人らしさ』です。

その2 ; 私の人生体験からいうと、人生には、想定外のこと、予想外のこと、計画外のこと、未経験のことが突然降って来るものです。咄嗟にどのように対応するか、適切な対応で間一髪、九死に一生を得る人と、混乱・錯乱に流されるまま被災する人と二分化するものです。他力的な運・不運ではありません。その人の無意識層に畳み込まれていた価値観・判断基準 (体内文化) が瞬時に出現し、そこで判断し選択した結果なのです。自分が決めたのです。こんなことをいうと多くの人は、何か宗教かぶれか? などと馬鹿にされそうですが、私は特定の宗教や迷信に被れてはおりません。

よく“直感”“インスピレーション”などと意々ますが、これは無意識層から発出されるものです。デヴィッド・ボーム氏「ホログラフィー宇宙モデル」の暗在系や村上和雄氏の唱えるナイトサイエンス (裏街道) やホーキング博士宇宙モデルや篠原佳年博士などが唱えることを総合すると、過去・現在・未来を全一化した『今』から発信された信号なのです。よくよく熟慮するとか、他人に相談するとかそんな時間余裕が無い目の前の危急的想定外への対応は、“直感”で行動します、“直感”は「T・P・O」(Time 時間、Place 場所、Occasion 場合) に100%マッチするようにひょいと降りて来ます、しかし、今の自分に100%都合良いかという、どっこいそうはなりません。その時点までの長年の生き様の集大成の出現です。悪事は悪事なりに畳まれています、善事は善事なりに畳まれています、陰陽原理の魚眼も挟まれているのです。ややこしい思考過程を経ません。人生、その人似合いに善いことも悪いことも絡まって来ますが、ここぞという時の運 (幸)・不運 (不幸) の顕現は、何気ない日常の生活において接するあらゆるもの・ことに対してどのような考え方で接しているのか、接して来たのかによって、2分化するというもの

です。非常事態緊急時の瞬時行動は、その人の本能・直感、つまり体内文化の顕現です、それは他人から左右されるものではなく、社会の影響に依るものでもありません。

2. 華嚴経との繋がり

華嚴経の中樞の教えに「心、諸(もろもろ)の如来を造る」「すべては心の表れである」という考え方があります。この教説は菩薩道のありよう(人間の生き方)の基軸となるのが『一日一日の、否、一瞬一瞬の心であることを明確に示しています。心の拠り所をどこにおき、心をどちらに向けるのか、その一瞬一瞬の積み重ねが、私達を地獄(不幸)にも、浄土(幸福)にも導きます。』ということであります。この瞬時瞬間の「待機(判断)／静 ⇒ 進行／動 ⇒ 待機(判断)／静」を無限に積み重ねて今日の私があるということであります。この日常の「心(認識や精神)・言(言葉や文字)・行(行動や活動)」が阿頼耶識(アラヤ識)や無意識層に貯蔵されて行くのです。今度は、次の日常の心・言・行に投影・反映されて来るのです。死までこの往復(ブーメラン)が永遠に繰り返されているのです。したがって、日常において、思想信条が偏っていると、何かに付けて、一定方向にか流れないので、その方向のある一点に凝り固まって行きます、世にいう「信念が硬い」というのは、一見聞こえはいいが、つまらない人間になります。

(end)